

妙心寺

過去帳に國運寺歴世如左記載す。

開山東院和尚

年曆不詳

二世碧水和尚

貞享二年十二月十四日

三世俊峰和尚

四世碩巖和尚

寛延三年六月廿日

右の過去帳、即今瑞光寺に存在す。

○國運寺觀音堂

緣起に云ふ。國運寺觀音堂に安置せる正觀世音の尊像は、慈覺大師の作佛なり。往古尾張國愛智郡熱田郷保多と云ふ所の海中より出現し給へる靈像にて、足利尾張守高經の末葉斯波武衛家代々持傳へける本尊なり。武衛家の末孫津田氏の元祖源正勝は、殊に此尊像をば尊崇せられ、此靈像を守護し來り、慶長の頃しばし在京ありし折、彼尊像の靈夢の告に依つて、慶長十四年に北國へ下向し、遂に加賀國金澤に居留り仕官せられ、國運寺を取立られ、右靈像を安置せられたり。然るに後國運寺中絶せしにより、靈像をば瑞光寺へ移し、瑞光寺の堂内に安置して、寛文九年四月始て

開扉をなしたり。是より世々瑞光寺に安置せし故、世人瑞光寺の觀音と呼べり。

拙寺兼帶所卯辰國運寺に安置仕候慈覺大師之作正觀世音者、往古より開帳仕來候。則享保十三年相願開帳仕候。其後寶曆十年開帳仕、其以後致中絶、開帳不仕候。下略

文政十三年寅四月

瑞光寺印

長屋谷傳燈寺

金澤三十三所觀音願禮歌といふものに左の如く載せたり。

西三番瑞光寺。まことより見るは佛の瑞光寺すめるころ

の水の月かげ

右は享保の頃の作なるべし。

○元如來寺

昔は如來寺町と呼べり。元祿九年の地子町肝煎裁許附に、木綿町・如來寺町。と記載し、同三年火災記にも如來寺町とあり。萬治年中まで、此の地に如來寺ありし故に如來寺町と呼べり。三州志來因概覽附録にも、小立野の如來寺は初め卯辰山にあり。今云ふ舊如來寺町の地是也。といへり。此の地邊今は卯辰高町に屬せしめたりといへども、世人は

今以てもと如來寺町と呼べり。

○如來寺舊地

此の地は小立野淨土宗如來寺の舊地也。如來寺は開祖覺蓮社炭藏和尚、天正年中に越中國増山に創立して如來寺と號し、其の後慶長の末同國高岡へ移轉し、又金澤へ再轉。五代吞繼和尚の時元和二年に、從天德夫人徳川家康公の位牌を被爲立。と如來寺の寺記に載せたり。されば慶長の末頃、越中高岡より金澤へ移轉の時、此の卯辰如來寺町の地に造立せしもの也。扱此の地より小立野へ移轉の年曆、

諸舊記載する處一概せず。三州志概覽に云ふ。如來寺は初め卯辰山にあり。天德君より東照宮の位牌を建て置かるゝにより、元和四年再興なり、松雲公の時清泰君の位牌を立て置かるゝにより、寛文元年小立野今の地に轉ぜらる。年譜には、寛文二年三月より如來寺普請始り九月成就と見ゆ、

一書には、萬治二年如來寺新屋敷五千百歩賜るとあり。今枝直方筆記には、此寺卯辰山より小立野に移させらるゝは、清泰君卒去後三年目とあり。然れば萬治元年也。といへり。平次按するに、菅家見聞集に、萬治三年正月より、清

泰院殿御位牌所淨土宗如來寺を、卯辰山より小立野へ引移御建立。と見ゆ、改作所舊記寶永四年四月の書面共にも如左載たり。

如來寺屋敷、萬治三年に百姓地打渡、地代之儀村高之内引高に罷成候由。尤引高之分御書記被遣候へ共、如來寺之分何村之内に而引高何程に候哉、相知候はゞ早速承度候。以上。

四月十日

御普請會所

御算用場

如來寺屋敷引高之地何村之内に而引高何程に候哉、書上可申旨奉長候。如來寺御屋敷内、石川郡山崎領御高之内に而拾五石五升、此外同郡上野町御高之内にて三拾一石四斗四合、萬治三年より引高に成申候。下略。

寶永四年四月十日

十村六人連名

御算用場

前件の書面にて見れば、菅家見聞集に、萬治三年春正月より、卯辰山より小立野へ引移造營と載せあるもの、實正なる事知られたり。如來寺の由來書に、最前卯辰に在之處、